2024 年 7 月 28 日
宮崎中部教会主日礼拝（長老代読）
牧師　乾　元美

詩編 37：1〜6
マタイによる福音書 5：13〜16
「地の塩、世の光」

【招詞】申命記 6：4〜5
【讃美歌】２７「父、子、聖霊の」
【詩編交読】詩編 143 編
【赦しの宣言】イザヤ書 55：7「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。
わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」
【讃美歌】５１「愛するイエスよ」
【祈祷】
【聖書】詩編 37：1〜6、マタイによる福音書 5：13〜16
【説教】「地の塩、世の光」
＜宣言＞
今日読まれた箇所は、イエスさまに従ってきた弟子たち、また、イエスさまの御許に集まってきた群衆に向かって語られた、マタイによる福音書の 5 章から 7 章まで続く、イエスさまの「山上の説教」の一部分です。
冒頭の「幸い章句」と呼ばれる、「あなたがたは幸いである」と繰り返される御言葉に続いて、今日の箇所が語られました。
今日のところでは、イエスさまに「幸いである」と言われた者が、どのように生きる者とされているか。そのことが語られています。
今ここにいるわたしたちも、イエスさまの御言葉を聞いている弟子たちや、群衆たちと共に。イエスさまに従う弟子として、イエスさまの御許に集められた者として、共に、今日の御言葉に、耳を傾けたいと思うのです。

さて、イエスさまは、わたしたちに言われます。「あなたがたは地の塩である」。「あなたがたは世の光である」。
世間一般でもよく知られている、聖書の有名な言葉です。これはよく「世の人の役に立つようになれ」、というような意味で、理解されることがあります。
でも、まずここで、勘違いしてはならないのは、イエスさまは、わたしたちに「あなたがたは地の塩になれ」、「世の光になれ」と命じられたのではない、ということです。
イエスさまは、「あなたがたは地の塩である」。もう、あなたがたは塩だ、と言われたのです。「あなたがたは世の光である」。もう、あなたがたは光だ、といわれたのです。
わたしたちは、もう、すでに塩であり、光なのです。これは、イエスさまの許で、イエスさまの御言葉を聞いているわたしたちへの、イエスさまによる「宣言」です。

＜塩とは、光とは＞
…「あなたがたは地の塩である」。
では、わたしたちが塩であるとは、どういうことでしょうか。
ふつう、塩は、食べ物の中に少し入れるだけで、全体に溶けて広がり、美味しく味付けをすることが出来ます。また、殺菌作用があり、腐るのを防止します。さらには、人間が生きていく上で、塩分は必要不可欠なものです。
「あなたがたは地の塩である」。地の塩である者は、罪人の世の中に入れられて、そこで周りに、救い主であるイエスさまの福音の風味を放ち、恵みの味を広げていきます。
また、腐ったような世にあっても、そこで神さまの聖さを保ちます。
ですからイエスさまに従う者は、塩と同じように、この世になくてはならない存在です。

また、イエスさまは言われました。「あなたがたは世の光である」。
わたしたちが光であるとは、どういうことでしょうか。光は、闇を明るく照らします。周囲を照らし、歩むべき道を照らすのです。
しかし、思えば。イエスさまは、まず御自分のことを「世の光である」と言われたのでした。これは、ヨハネによる福音書の御言葉ですが、8：12 にこうあります。
「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」
…イエスさまは、罪の暗闇の中にいたわたしたちを、まず御自分の救いの光で照らしてくださいました。イエスさまによって罪を赦され、救われたわたしたちは、イエスさまの光に包まれて、イエスさまと一つにされました。その光の中で、わたしたちもまた、受けた光を、暗闇の世に輝かせる者とされているのです。
イエスさまは言われます。「わたしは世の光である」。そして、「あなたがたは世の光である」。わたしたちは、イエスさまの命の光を与えられ、イエスさまと同じ「世の光」と呼ばれる者とされ、暗闇を照らす者とされたのです。
イエスさまは、「わたしに救われ、わたしと共にいるあなたは。今わたしの前で、わたしの言葉を聞いているあなたは。地の塩となっている。世の光となっている」。
そう、宣言してくださったのです。

＜塩、光とされる＞
…しかし、この宣言を聞いたわたしたちは、ちょっとたじろいでしまうかも知れません。
確かに、イエスさまの十字架によって、罪から救われたと信じている。新しい命をいただいて、神さまが、いつも、どのようなときも、共にいてくださると信じている。
でも、それなのに未だ、弱々しい、愚かな、罪深い歩みをしてしまうわたしたちです。
わたしは、世の汚れを清める塩になどなれない。イエスさまと同じ光と呼ばれて、暗闇を照らすような存在にはなれない。尻込みして、そう言いたくなってしまいます。

でも実は、わたしが塩であること、光であることに、わたし自身の弱さや、愚かさは、何も関係がありません。

そもそも、わたしがどれだけ深刻な罪人かということは、イエスさまが、百も承知しておられます。なぜならイエスさまは、このわたしに罪の赦しを与えるために、あの苦難の十字架で、御自分の命を引き換えにしてくださったお方だからです。
わたしたちは、本当に貧しいのです。自分で自分を救えないのです。罪に捕らわれ、どうしようもないのです。疑い深く、弱く、小さい者なのです。ですから、わたしたちが、自分の頑張りや努力によって、塩や光になれるのではありません。
わたしたちは、イエスさまの十字架の死によって、罪から清められ、豊かな味付けをされ、塩とされたのです。また、イエスさまの復活によって、命の光を与えられ、その光をこの身に帯びて、輝かされているのです。

イエスさまの清さが、わたしを清くしてくださる。イエスさまの命の光が、わたしを照らし、輝かせてくださる。
だから、イエスさまは宣言してくださいます。「わたしの許に来たあなたたちは。わたしの救いに与ったあなたたちは。わたしにあって、地の塩である。わたしにあって、世の光である」。
イエスさまに救われて、イエスさまと一つに結ばれて、わたしたちは、地の塩とされ、世の光とされたのです。

＜立派な行い＞
では、塩とされ、光とされたわたしたちは、どのように歩めば良いのでしょうか。
この地に、福音の味付けをすることを。この世の暗闇を照らすことを。どのようにしたら良いのでしょうか。
マタイ 5：16 にはこうありました。「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」
ここに、「人々が、あなたがたの立派な行いを見」るように、とあります。そのことによって、人々が「あなたがたの天の父をあがめるようになる」のだ、と。

「あなたがたの立派な行い」。これが、わたしたちが、塩として、光として、世の中を歩む、ということです。
でもこれは決して、清く正しい生活をするとか、何か立派なことを成し遂げるとか、人助けのボランティアをするとか、そういうことを指しているのではありません。それらも、もちろん大切なことですし、やった方がいいに決まっています。
でもむしろ、ここで言う「立派な行い」とは、もっと根本的に、わたしたちがなすべきことを言っているのです。

この「立派な」と訳されている言葉は、もとのギリシア語では、「良い、美しい、すばらしい」という意味の言葉です。立派な行い。美しい行い。すばらしい行い。

…それは、わたしたちが、まことの神さまを、心から信じて生きることです。
これこそ、イエスさまが「あなたがたの立派な行い」、「美しい行い」「すばらしい行い」と言ってくださるものなのです。
そして、これこそ、わたしたちが、地の塩として歩み、世の光として、わたしの光を人々の前で輝かせる、ということなのです。

まことの神さまを信じて生きる。
それは、悲惨な罪人であったわたしたちが、イエスさまに救われて、罪を赦されて、新しい命を与えられて、今このように、喜んで神さまを賛美し、礼拝をささげる者とされている、ということです。
また、それぞれの人生の苦難や、試練や、嘆きのときに。悲惨な現実に打ちのめされるときに。わたしたちが、ただひたすら、父なる神さまの名前を呼んで、神さまに泣きついて、神さまに救いを求めて、祈る者とされている、ということです。

…光は、そこにあるだけで、暗闇を照らします。
イエスさまと共に生きるわたしたちもまた、信仰者としてこの世に置かれている、それだけで、イエスさまの光を、周りの人々に輝かせているのです。
周りの人々は、きっと思うのではないでしょうか。「この人が、毎週必ず嬉しそうに礼拝に行くのはなぜだろうか」。「この人が、いつも感謝しているのはなぜだろうか」。
また、「この人が、苦しみの時に、救いを求めて祈っている神とは、何者なのだろうか」。「こんなに弱いこの人を、生かし、強め、支えている神とは、何者なのだろうか」と。
その時わたしたちは、混沌とした味気のない世界で、周囲の人々に、鍋に入れられた塩のように、神さまと共にある平安を、慰めを、希望を、じんわりと伝え広げているのです。

…神さまに感謝して歩む、わたしたちの日々が。神さまに縋って生きる、わたしたちの姿が。この世の、まだ神さまを知らない人々に対して、わたしを救い、わたしと共にいてくださる、生けるまことの神さまの存在を、はっきり証しし、指し示すことになります。
そして、罪人のわたしたちを赦し、弱いわたしたちを強め、貧しいわたしたちを満たしてくださる父なる神さまを、人々が知り、あがめるようにされていくのです。

＜わたしの光を人々の前に輝かせる＞
一方でイエスさまは、塩に塩気がなくなれば、何の役にも立たない、とも言われました。
また、「ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く」と言われました。つまり、塩の味を失わせたり、光を覆い隠してはならない、と言われたのです。
これは言い換えれば、わたしたちは、せっかく塩とされたのに、塩気を無くしてしまうことも出来る。
また、せっかく光とされたのに、その光を覆って隠し、周囲を暗闇のままにしておくことも出来てしまう、ということです。

神さまに感謝せず、礼拝を重んじず、恵みを忘れ、祈りを忘れ、暗闇にまぎれ、世に合わせていくことも出来てしまう。でも、それでは、いただいた恵みが台無しです。

確かに、わたしたちは、信仰者として生きていくために、苦しみに遭ったり、葛藤や、迫害や、戦いが起こることもあります。イエスさまは、わたしたちが、イエスさまのゆえに迫害に遭うということも、この「山上の説教」で繰り返し語っておられるのです。
でも、このイエスさまが、神の御子が、救い主が、わたしたちと共にいてくださるなら、わたしたちには、これ以上の幸いはないし、これ以上の喜びはないのです。

「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」。
わたしたちは、神さまの恵みに生かされる者であり、神さまなくしては生きられない者です。ですから、わたしたちは、救いを与えられ、信仰を与えられ、神さまの子どもとして生きる者とされた人生を。心を尽くして、精神を尽くして、思いを尽くして、力を尽くして、精一杯、喜んで、生きていきたいのです。
…まさに、今ここで、わたしたちがしているように、イエスさまの御許に集められ、父なる神さまを賛美し、心からの礼拝をささげていきたい。
そして、ここから遣わされていく、それぞれの家庭や、住んでいる地域や、職場や、学校や、今置かれている場所で。イエスさまに救われた者として、祈りをもって、感謝をもって、日々を大切に歩んでいきたい。
そうやって、恵みに生かされるわたしたちを、神さまは、塩として、光として、この地に、この世に置いてくださり、御自分の恵みを証しするものとして用いてくださるのです。
「あなたがたは地の塩である」。「あなたがたは世の光である」。
お祈りをいたします。

【お祈り】
天におられる、わたしたちの父なる神さま
御子イエスさまの十字架と復活の御業によって、わたしたちを罪の汚れから清め、地の塩としてくださったこと。また、暗闇の中から救い出し、イエスさまの命の光を与え、わたしたちを、世の光としてくださったことを、感謝いたします。
今日ここに、イエスさまの御前に集められた一人一人が、心からあなたを礼拝し、日々をイエスさまと共に歩み、聖霊の導きのうちに、この宮崎の地にあって、福音の恵み豊かな風味を、広げていく塩とされますように。
また、闇の中にいる人たちに、イエスさまの救いの光を、指し示す灯（ともしび）として、歩んでいくことが出来ますように。
そして、そのことによって、わたしたちの周りの人々が、あなたの愛と恵みを知り、イエスさまの救いに与り、あなたをまことの神として、あがめるようになりますように。
このお祈りを主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讃美歌】５０９「光の子になるため」
【信仰告白】ニカイア信条
【十戒】
【献金】６５－１「今そなえる」
【主の祈り】
【祈祷】
【讃美歌】２８「み栄あれや」
【黙祷】